

平成 18－19 年度「先導的大学改革推進委託」

大学ベンチマーキングと評価指標のあり方に関する

調査研究

調査報告書

平成 20 年 3 月

目次

《本編》

1. はじめに.....	1
1.1 調査の目的.....	1
1.2 調査の実施体制.....	1
1.3 調査期間.....	1
1.4 調査内容（本報告書の構成）.....	2
2. 大学ランキングとベンチマーキング.....	4
2.1 既存の大学ランキングの分析.....	4
2.2 大学ベンチマーキングのあり方と大学ランキングとの関係性の検討.....	18
3. 国際的な大学ベンチマーキングの試行.....	21
3.1 ベンチマーキングの枠組み.....	21
3.2 文献調査に基づく基礎データの収集・分析.....	24
3.3 東京大学内のインタビュー調査.....	97
3.4 比較対象大学への訪問・インタビュー調査.....	161
3.5 特定分野のカリキュラムの比較分析.....	165
3.6 国際ワークショップの開催.....	169
3.7 ベンチマーキング試行結果の総括.....	175
4. おわりに.....	180

《付録》

- A. 大学ベンチマーキング・評価指標検討委員会議事録
- B. 各分野のコアカリキュラム一覧（英訳）
- C. 各分野のカリキュラム比較
- D. イェール大学インタビュー調査
- E. 国際ワークショップ

I . 本編

1. はじめに

1.1 調査の目的

近年、経済・社会情勢など急速な環境の変化へ適切に対応するため、大学にとって継続的な改善行動の必要性はかつてなく高まっている。また、適切な改善行動をとるためには、大学が自らの様々な活動を正確に把握するだけでなく、他大学との比較を通じた強み・弱みに関する詳細な評価・分析手法の確立が急務であると考えられる。

本調査では、大学の教育研究活動に関する適切な評価・分析手法を確立するため、大学ランキングの内容を多角的に精査・分析し、その問題点を抽出するとともに、大学ベンチマーキングのあり方を検討し、国際的な大学ベンチマーキングを試行する。さらに以上の結果を踏まえて、大学の教育研究活動を計る評価指標のあり方を検討する。

1.2 調査の実施体制

調査研究総括責任： 濱田純一（東京大学理事・副学長）

調査研究責任： 堀井秀之（東京大学大学院工学系研究科教授）

調査研究サブ責任： 村沢義久（東京大学サステイナビリティ学連携研究機構特任教授）

株式会社三菱総合研究所と役務契約を結び、同科学技術研究本部科学技術政策グループに、資料収集・整理等の作業を依頼した。

調査の実施に当たっては、大学ベンチマーキング・評価指標検討委員会を設置し、有識者の知見を有効に活用した。委員会の構成を以下に記す。

表 1-1 大学ベンチマーキング・評価指標検討委員会構成

委員長	堀井秀之（東京大学大学院工学系研究科 教授）
幹事	村沢義久（東京大学サステイナビリティ学連携研究機構 特任教授）
委員	金子元久（東京大学大学院教育学研究科長 教授）
	小林雅之（東京大学大学総合教育研究センター 助教授）
	坂本達哉（慶應義塾大学 国際担当常任理事）
	小林哲夫（朝日新聞社『大学ランキング』編集統括）
オブザーバー	米澤彰純（独立行政法人大学評価・学位授与機構 助教授）

1.3 調査期間

平成 18 年 11 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

1.4 調査内容（本報告書の構成）

本委託事業は、平成 18 年度から 19 年度にわたる事業であり、本報告書は平成 18 年度の調査結果を含めて 2 ヶ年の事業内容を報告するものである。平成 18、19 年度における調査では、以下の内容について実施した。

1.4.1 大学ランキングとベンチマーキング

(1) 既存の大学ランキングの分析【平成 18 年度】

(a) 国際大学ランキングの評価手法・指標の把握

既存の国際大学ランキングである World University Ranking、Academic Ranking of World Universities、Top 100 Global Universities を対象として、その評価手法（評価指標、重み付け）や特徴を把握・整理した。

(b) 既存大学ランキング調査の問題点の整理

まず、上記の既存の国際大学ランキングおよび大学ランキング手法全般について、問題点や評価から抜け落ちている観点を整理した。

(2) 大学ベンチマーキングのあり方と大学ランキングとの関係性の検討【平成 18 年度】

大学ベンチマーキングと大学ランキングとの関係性を比較・整理し、大学ベンチマーキングのあり方について検討した。

1.4.2 国際的な大学ベンチマーキングの試行

東京大学、ケンブリッジ大学、イェール大学、カリフォルニア大学バークレー校（以下、UC バークレー校）を比較対象大学として、特に教育を中心とした国際的なベンチマーキングを試行的に実施した。

(1) 文献調査に基づく基礎データの収集・分析【平成 18 年度】

文献調査や各大学のウェブサイト、Annual Report 等に基づいて大学ベンチマーキングに関する基礎データを可能な範囲で収集し、大学間の比較分析を行った。

(2) 東京大学内のインタビュー調査【平成 18 年度】

比較対象大学とベンチマーキングを行う上で、ベースとなる東京大学の教育状況について、5 分野を候補として選定し、学内にインタビュー調査を実施し、学部・大学院教育の実態（特にカリキュラム構造）を把握した。

(3) 比較対象大学への訪問・インタビュー調査【平成 18 年度】

海外の比較対象大学に対してインタビュー調査を実施した。具体的には教育に関係し

た全学的な課題・取り組み状況を調査すると共に、特定分野のカリキュラム比較を行うために必要な情報を収集した。

(4) 特定分野のカリキュラムの比較分析【平成 19 年度】

東京大学におけるインタビュー調査の結果を、海外の大学の対応する学科・専攻教員に送付し、対応する内容の書面調査を実施した。

またウェブ等で公開されているカリキュラム情報を基に、3 分野について詳細なカリキュラム比較を行った。

(5) 国際ワークショップの開催【平成 19 年度】

海外より 5 大学程度のプロボスト（学寮長、学務担当副総長）クラスに参加頂き、日本の関係者参加の下でベンチマーキングの結果をベースに、ディスカッションを行った。

(6) 大学の教育活動を計る評価指標のあり方の検討【平成 19 年度】

調査結果を踏まえ、大学の教育活動を計る評価指標のあり方を検討した。